

エゴマ6次化加工販売により、収益が向上する

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 地域課題解決展示ほによる営農再開支援

研究課題名 エゴマの機械化栽培体系の実証(川内村)

担当者 松木伸浩・根本知明

I 実証技術の解説

1 要旨

エゴマ機械化体系栽培の実績(対象:法人 A)をもとに種実販売、加工販売(エゴマ油)の収益性について試算を行った結果、種実販売の利益は約2万円/10a、利益率は、約2割であった。加工販売の利益率は種実販売に比べ高いことから、収益向上のため6次化加工販売に取り組む必要がある。

- (1) 種実販売の収益性を試算した結果、売上総利益は19,880円/10a、利益率18.9%であった(表1)。
- (2) 加工販売(エゴマ油)の収益性は、自家生産したエゴマをエゴマ油に委託加工した場合、売上総利益53,050円/10a、利益率35.8%であった(表2)。
- (3) 加工販売の利益率は、種実販売比べ高かったことから、収益向上のため6次化加工販売に取り組む必要がある。

2 期待される効果

- (1) エゴマ栽培生産者の収益を高めることができる。

3 活用上の留意点

- (1) 川内村法人Aの平成29年におけるエゴマ機械化体系栽培の実績をもとに試算した結果である。
- (2) 台風の影響により収量が低い事例での試算であり、収量を確保することにより(例:平成25年昭和村40kg/10a)、さらなる収益の向上が可能である。
- (3) 種実販売単価は過去に大きく下回っていた事例もあることから、収益性低下のリスク要因になる。
- (4) 加工販売は在庫を抱えるリスクがあるため、安定的な販路確保が必要である。

II 具体的データ等

表1 エゴマ種実販売の収益性の試算事例(円/10a)

反収	30 kg/10a ^{※1}
販売単価	3,500 円/kg ^{※1}
売上高	105,000
変動費	34,691
労務費	12,043 ^{※1, 2}
肥料費	5,960 ^{※1}
光熱動力費	6,000 ^{※3}
諸資材費	10,688 ^{※1}
固定費	50,429
減価償却費	50,429 ^{※4}
売上原価	85,120
売上総利益	19,880
売上総利益率	18.9%

※1: 法人Aの平成29年実績。

※2: 福島県の最低賃金(748円、平成29年10月)

※3: 平成26年昭和村におけるエゴマ栽培の手引きより引用。

※4: 法人Aの平成29年導入機械(真空播種機、トラクター、半自動移植機、コンバイン、穀物洗機、他の経営品目と共通な機械については含まない)の総額、耐用年数7年、栽培面積5haより算出。

※: その他の費用は考慮していない。

表2 エゴマ加工販売(エゴマ油)の収益性の試算事例(円/10a)

油販売数量	78 本/10a ^{※1}
販売単価	1,900 円/本 ^{※2}
売上高	148,200
変動費	95,150
原材料費	85,120 ^{※3}
加工委託費	4,500 ^{※4}
諸材料費	5,530 ^{※5}
売上原価	95,150
売上総利益	53,050
売上総利益率	35.8%

※1: 反収30kg/10a、搾油率30%、瓶容量115gより算出。

※2: 法人Aの平成29年実績。

※3: 表1売上原価。

※4: 搾油委託費150円/kg

※5: 瓶・ラベル代70.9円/本

※その他の費用は考慮していない。

III その他

1 執筆者

松木伸浩

2 実施期間

平成29年度

3 主な参考文献・資料

- (1) 平成20年度「福島県稲作・畑作指針」
- (2) 平成26年昭和村におけるエゴマ栽培の手引き(昭和村農業委員会)